

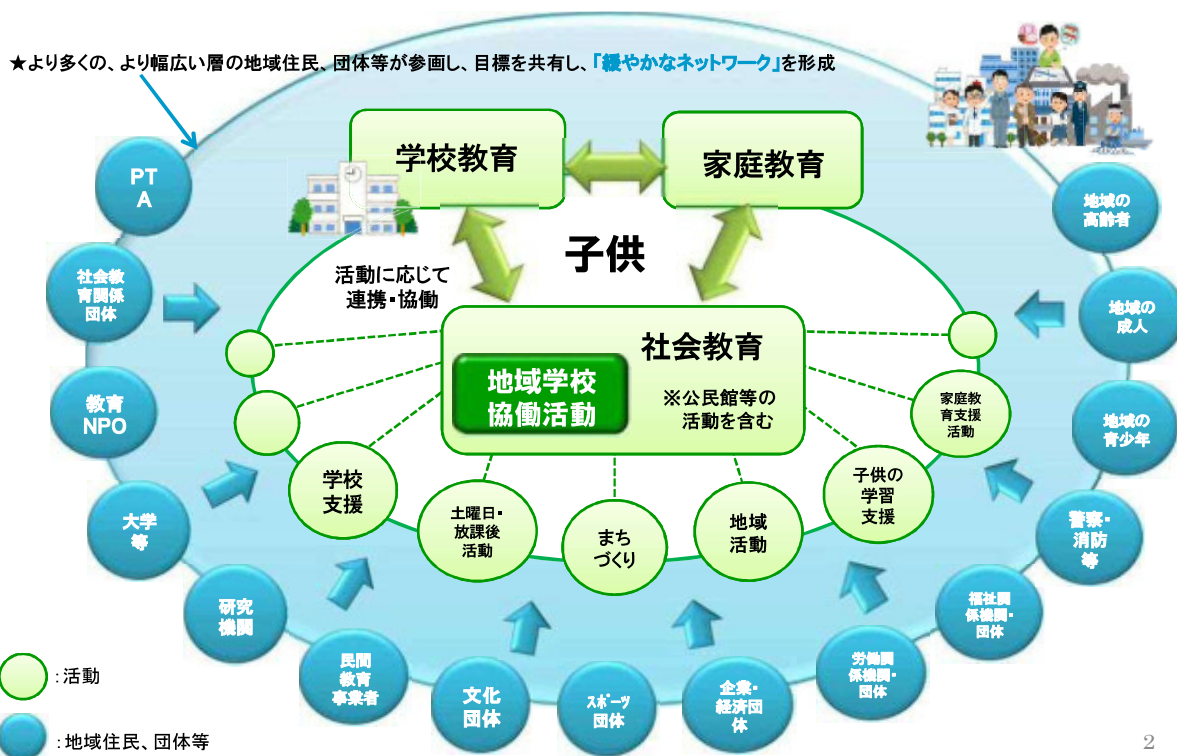
ナゴヤ子ども応援会議・教育シンポジウム

大阪府立大学 スクールソーシャルワーク評価支援研究所 所長
 地域保健学域 教育福祉学類 教授
 山野則子

<http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/>

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。



3

「次世代の学校・地域」創生プラン

～中教審3 答申の実現に向けて～

平成28年1月25日
文部科学大臣決定

答申③←教育再生実行会議第7次提言

教員改革 (⇒資質向上)

養成・採用・研修を通じた
不断の資質向上



現職研修改革

・管理職研修の充実

・マネジメント力強化

・ミドルリーダー育成

・免許更新講習の充実

・チーム研修等の実施

・英語・ICT等の課題へ対応

採用段階の改革

・採用試験の共同作業

・特別免許状の活用

養成段階の改革

・インターンシップの導入

・教職課程の質向上

教員育成指標

養成指標決定論

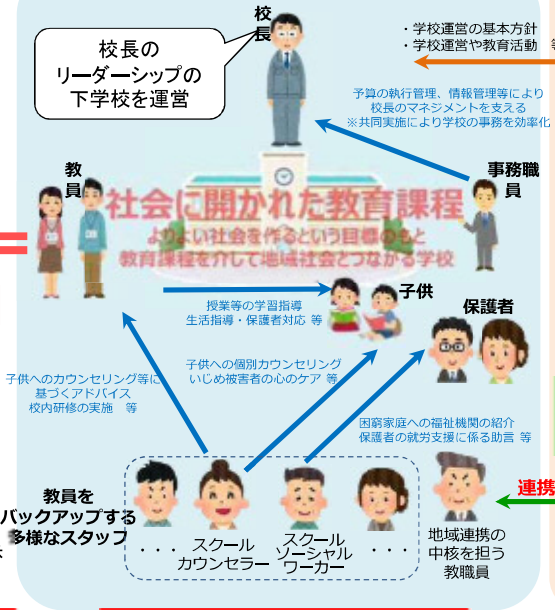
→ 都道府県が策定

→ 一国が大綱的に提示

要・法改正：免許法、教員センター法、教等法

答申②←教育再生実行会議第7次提言

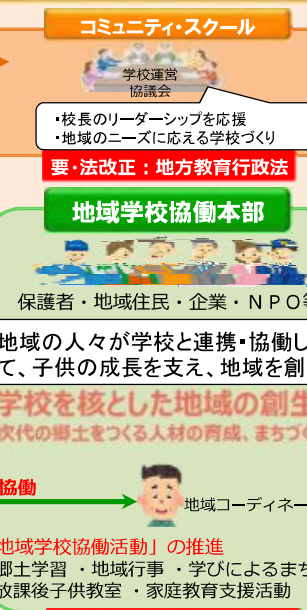
学校の組織運営改革 (⇒チーム学校)



要・法改正：学校教育法、地方教育行政法

答申①←教育再生実行会議第6次提言

地域からの学校改革・地域創生 (⇒地域と学校の連携・協働)

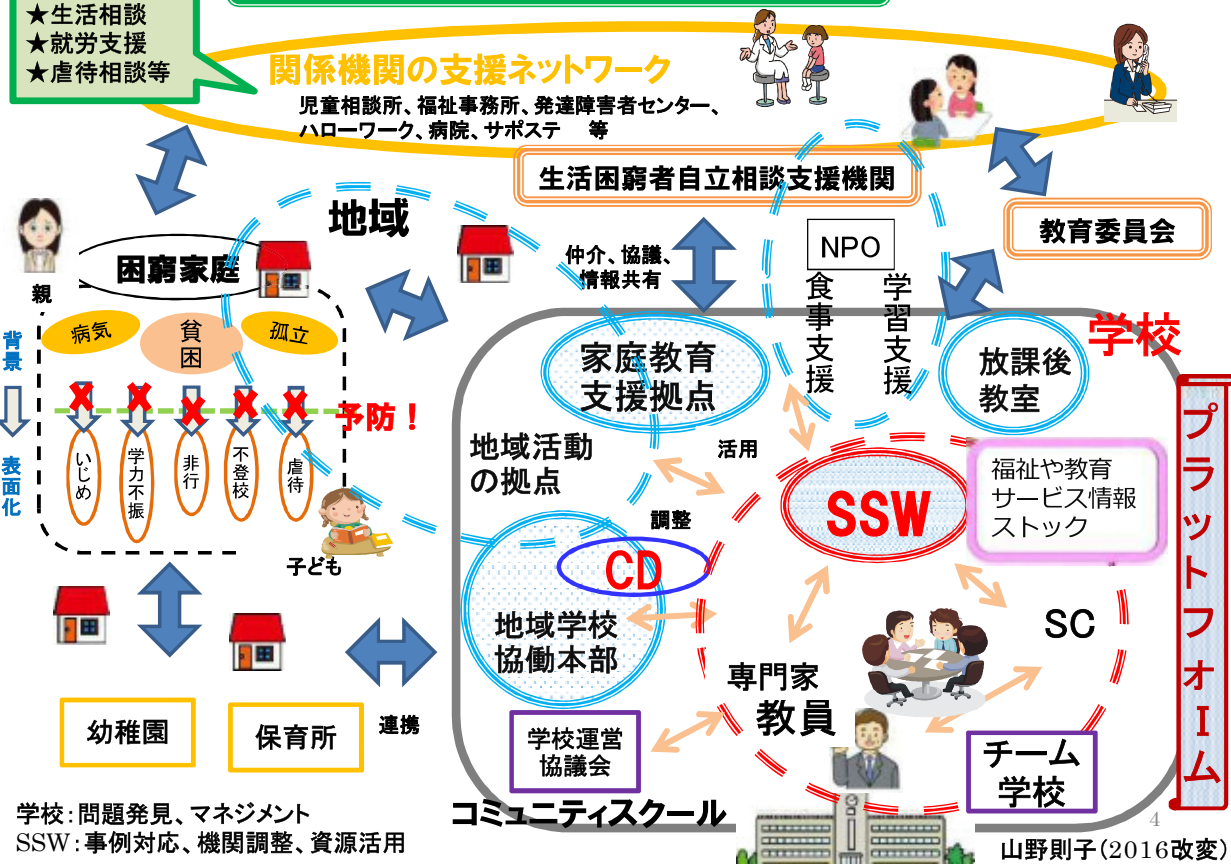


要・法改正：社会教育法

「次世代の学校」の創生に必要な不可欠な教職員定数の戦略的充実
子供たちが自立して活躍する「一億総活躍社会」「地方創生」の実現³

4

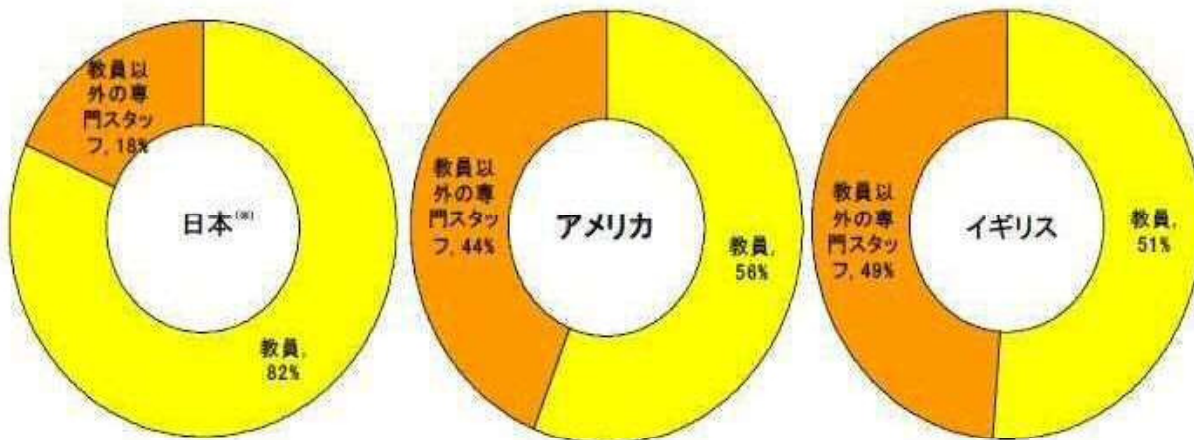
① 学校のプラットフォーム



⑤

専門スタッフの割合の国際比較

○初等中等教育学校の教職員総数に占める教員以外の専門スタッフの割合



出典：文科省「学校基本調査報告書」(平成25年度)、「Digest of Education Statistics 2012」、「School Workforce in England November 2012」

※1 日本は小・中学校に関するデータ

※2 日本における専門スタッフとは、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭、専任職員、学校栄養職員、学校図書館専任職員、養護職員、学校給食調理師専任職員、用務員、管理員等を指す

※3 アメリカにおける専門スタッフとは、ソーシャルワーカー、医療資格職、教職支援員等を指す

※4 イギリスにおける専門スタッフとは、司書、メンター、医療及び養護職員等を指す

文科省(2015.11)チーム学校作業部会 資料

⑥

アメリカのスクリーニング)すべての子どもの行動と介入レベル(Kelly2014)

日本では
不十分...

審査と評価

科学的根拠に基づいた支援と介入

第3のデータ: ~5%の問題を抱えている生徒

- 問題を抱えている生徒のデータ
- 成績、出席に関する機能的支援の観察、
- 教師のモニタリング、
- 生徒のセルフモニタリングデータ
- 目標達成割合

第3の介入: ~5%の生徒

- 1次予防策の利用
- 機能的な支援
- 行動の取り決め
- 生徒のセルフモニタリング—SCAR
- 教師のモニタリング—BEP
- 小グループ指導—Coping Power
- 見守り

児相: My Treeなど
虐待対応や行動変容などのプログラム

第2のデータ: ~15%の問題を抱えはじめている子ども

- 問題を抱えはじめている生徒
- 進行中の観察データ
成績、出席率、機能的支援の観察、
教師のモニタリング、
生徒のセルフモニタリングデータ

第2の支援: ~15%の生徒

- 1次支援サービスの利用方策
- 機能的な支援
- 行動の取り決め
- 生徒のセルフモニタリング—STARS
- 教師のモニタリング—BEP
- 小グループ指導—Coping Power

市町村でのプログラム

第1のデータ: すべての生徒

- 行動障害のための系統的なスクリーニング
- 社会的なスキルの改善システム
- 子ども行動評価システム
- 小学校の成功例

第1の支援: 100%の生徒

- 適切な行動ゲーム
- 素晴らしい教員
- 社会性と情動の学習生徒指導
- 社会性と情動の学習カリキュラム (PaTHS, Strong Kids)

SSWのSSTプログラムや地域の赤ちゃんふれあいプログラム等

⑦



⑧

学校プラットフォームとして機能するために

チーム学校がさらに機能する仕組みへ
 校内組織のなかの位置づけ
 学校内で発見するためのスクリーニング会議の
 定例化、事例検討会の定例化
 学校内でケース会議の定例化

学校が拠点となって動く人材との連動
 地域と学校組織の中に位置づいた応援チームと
 の連絡会の策定
 子どもの力の導入→好循環へ

→課題への予防的アプローチは格差是正となる